

**第31回吉岡弥生記念講演会
(第352回東京女子医科大学学会例会)**

日 時：平成 27年 5月 22日 (金) 13:45~16:00

会 場：東京女子医科大学 弥生記念講堂

対 象：本会会員，本学学生・教職員，一般

(司会) 幹事 尾崎 眞

会長 吉岡俊正

挨 拶

平成 27年度 (第54回) 吉岡弥生研究奨励賞授与式 13:45~13:55

体外循環中の血液凝固線溶機能亢進を防ぐために

ヘパリンの効果的な投与方法

内臓脂肪および皮下脂肪が腎機能に与える影響

当院における糸球体腎炎患者の可溶性ウロキナーゼ受容体濃度の検討

東医療センター麻酔科 講師 市川順子

東医療センター内科 助教 興野 藍

内科学 (第四) 助教 越智文美

平成 26年度 (第53回) 吉岡弥生研究奨励賞受賞者研究発表 13:55~14:15

心不全における免疫異常の検討

(座長) 幹事 尾崎 眞

循環器内科学 講師 佐藤加代子

第31回吉岡弥生記念講演 14:30~16:00

挨 拶

理事長 吉岡俊正

(座長) 会長 吉岡俊正

弥生先生を語る

女性はもっと活躍できる!

昭和 32年本学卒業生 小暮美津子 先生

元 (株) 資生堂代表取締役副社長，公益財団法人 21世紀職業財団会長 岩田喜美枝 氏

心不全における免疫異常の検討

(循環器内科学)

佐藤加代子

〔研究目的〕高齢化社会にともない，死亡原因に占める心不全の割合が増加している．本研究では，心不全における T細胞を中心とした獲得免疫異常を調べ，さらに心不全の標準的治療薬であるアミオダロン (抗不整脈薬) の効果を検討した．〔方法〕虚血性心筋症，拡張型心筋症，肥大型心筋症，弁膜症性心筋症を主な原因とした慢性心不全患者における，①末梢血中の炎症性サイトカインと臨床検査所見との関連．②免疫記憶：ナイーブ T細胞 (TN)，セントラルメモリー T細胞 (TCM)，エフェクターメモリー T細胞 (TEM)，エフェクター T細胞 (Teff)：CD4+Th細胞サブセット，細胞障害性 T細胞 (CTL) の解析．③K⁺チャンネル KV1.3 阻害効果を持

つアミオダロンの心不全患者に対する効果を検討した．

〔結果〕中等度心機能低下した慢性心不全患者 29例 (心筋症が 60%，HF 群) と心機能正常な対照群 64例を比較した．HF 群では血中 BNP，高感度 CRP，炎症性サイトカイン IL-6，IL-2，IFN γ ，IL-17A が高値であった．また，T細胞の免疫記憶では CD45RA-CCR7-TEM および CD45RA+CCR7-Teff の増加を認めた．T細胞のエフェクター機能としては，CD4+IFN γ +T細胞，CD8+IFN γ +T細胞，CD8+IL17+T細胞，CD8+granzyme+CTL の増加が認められた．アミオダロンはこれらの異常を抑制した．〔結論〕心不全患者には獲得免疫異常があることが明らかとなった．KV1.3 阻害効果を持つアミオダロンは Teff のエフェクター機能を抑制し，重症心不全患者の予後改善が期待された．